

『リリースエース』 Veno ～リリースバー～



晴れて商品となったリリースバー。以前の当社オリジナルハンドルの多くがそうであったように、今は異端に見えるその形状も、時がバランスを与えてくれるのかもしれません。



▲シマノ ST-R8000 装着例



▲SENSAR EMPIRE 装着例



▲Dixna ジェイリーチ装着例

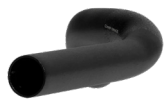
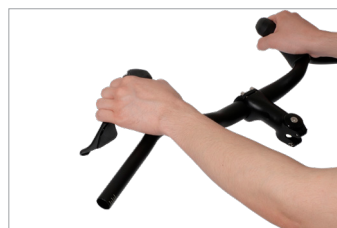
▶このハンドル、サンプルで乗り込むにつれて新たな発見がありました。まず、ドロップハンドルからハンドルとバーテープ又はグリップを変えるだけで基本的にフラットハンドルのように使用出来ます。これできっかけとなった友人が自転車に乗らなくなることは回避されるでしょう。加えて、ブラケット部分でも手の甲を上にした状態で変速とブレーキの操作が可能です。要するに大きく2つのポジションで操作できるのです。これによってロングツーリングなども可能でしょう。それに幅広でMTBハンドルのように腕力を使えることから、貧脚の自分でも斜度のきつい坂道がロードバイクでもこなしやすくなったりします。ヒルクライムに特化したコースをハンドルだけ変えてトライするのもアリではないかと思います。下りのブレーキ操作も余裕です。また、MTBに近い上腕姿勢を取れますので、グラベルのようなオフロード走行もこなせるでしょう。



▲基本セッティングを正面から見たロゴ位置。



▲ハンドルを真上から見た基本セッティングのバックスイープは25度。

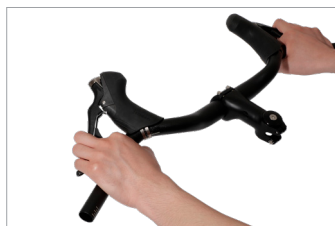


▲基本セッティングでは、グリップ部分が15度傾斜。

◀ブラケットではドロップの時と同じような感覚で操作が可能。



▲フラットハンドルポジションに相当するグリップ位置。



▲人差し指でグリップしながらのブレーキ操作が可能。



ハンドルに傾斜を持たせ、レバーを前上にセットしたリラックスモード。ハンドル両端を6mmづつカットしてクッション性の高い形状のグリップ(Veno ポップグリップ)を装着し、更にステムやサドル位置の調整によってクロスバイク的な快適性が高まります。写真の自転車にはシマノ ST-6800 レバーが装着されています。



ハンドル傾斜を抑えレバーも地面と平行に近くセットしたスピード走行にも対応できるポジション。バーテープの重なり具合で厚みの調整も行えます。他のパーツセッティング次第ではグラベル走行などのマルチユースとして活躍してくれることでしょう。写真の自転車にはシマノ ST-RS685 レバーが装着されています。

▶ハンドル取り付け角度・レバー取り付け角度・走る環境に合わせた夫々の角度…これらを突き止めるのに時間がかかるかもしれませんが、「リリースバー」は急場の代役にとどまらず『リリースエース』として、主役の座を狙う製品となるのではないかと、そっと期待を寄せています。

